

(犬山市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 10校、中学校 4校、特別支援学校 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人	
		地域学校協働活動推進員	14人	
		統括コーディネーター	0人	
		地域コーディネーター	0人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 0校	中 0校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 10校	中 4校	



(活動の実際)

【楽田小学校の取組】

◇地域学校協働活動に対する現在：活動の始まり

新たな行事を追加実施するのではなく、現在ある「楽田小学校教育課程」の範囲で関連する取組を洗い出し、地域のリソースを活用した方がよりよい授業になり得る取組を実施する。また、同様に学びの環境づくりにも参画できるような体制づくりの支援等を行う。

地域にも学校にも無理なく、それでいて有用な取組を選定し、導入していくべきだと考える。

例) 楽田城の歴史、木津用水の役割とは、避難場所楽田小、ペンキ塗り 等

◇地域と連携した活動（一部）：できることから一つずつ

日時	地域連携者・団体・施設	活動趣旨
5月	二ワ里ネット	6年社会：歴史 青塚古墳ガイダンス
6月	市役所(防災課)	4年社会：楽田小は防災基地
9月	市役所(下水道課)	4年社会：水はどこから来て、どこへ行くの（出前授業）
9月	二ワ里ネット・楽田コミュニティ	6年総合：楽田城址探検
9月	日本モンキーセンター	6年理科：からだのつくり～サルの消化管～（出前授業）
11月	犬山社会福祉協議会	3年総合：福祉実践教室
11月	小野洞砂防公園(一宮建設事務所)	5年理科：流るる水のはたらき（砂防ダム見学）
年間	楽田コミュニティ	5年総合：古代米づくり
年間	クラブボランティア	テニス、茶道

◇今後の方向性：地域学校協働本部機能の強化に向けて

学校に必要なことは何か、地域のアイデンティティを踏まえた必要なことは何かを、PDCAサイクルによってブラッシュアップを行い続ける体制を構築することにした。今後は、学校と地域が連携を進める上で、話し合う場を計画的に設定する。

(◎成果と●課題)

◎教員の負担軽減につながった。地域の再発見となった。

◎地域ボランティアの説明により、より地元を愛する気持ちを育むことができた。

●長期的に活動を継続するためのハブ機能の確立とビジョンの構築をゆっくり進めたい。

●実施するメンバーや高いモチベーションがあっても、物理的な資源がなければ活動は成り立たない。それをどのように調達するかを話し合い、地域にも浸透させていくことが今後必要だろう。

(関係者の声)

・自分たちの活動を子供たちに伝える場をいただけるのは感謝しかない。(地域)

・地元の新しい発見をすることができ、楽しかった。(保護者)

・地域に合わせた取組を考えるため、カリキュラムも含め、議論が必要である。(教員)